

## 「対人関係に関すること」

### 7 活動名「キャッチボールをしよう」

#### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

人と簡単なやり取りをする活動でも、相手を意識したり、相手の様子に合わせた行動をしたりすることが難しいため、まず、簡単な活動のなかで、相手を意識した行動を身に付ける。

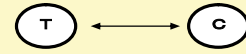
#### この授業で学習させたい目標

- 相手の状態を意識してボールを投げる。
- 準備ができたことを、身振りや言葉などで相手に知らせる。

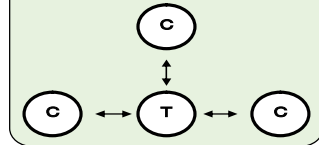
#### <主な活動>

児童の学習	支援
最初は、教師(受け取り側)・児童(投げる側)で行う。 ①ボールを投げる側は、言える子供は「いくよ」と言う。  ③投げて側は、受け取り側の準備ができたのを確認したら、ボールを投げる。  ※投げる側と受け取る側の役割を交代する。 ※最初は、教師と児童で行う。放るボールの向きや強さを意識的にコントロールでき、相手の様子も意識できるようになったら児童同士でのキャッチボールをする。	・児童が言わないようなら、「いくよ」と一緒に言うようにする。 ・「いいよ」といって、受けるポーズをする。 ・確認する前に、ボールを投げてしまったら、「まだ早いよ」とすぐにボールを返す。 ・ポーズを取ってから、ボールを投げてきたら受け取り、「よくできたねー」と褒める。

#### 指導形態Ⅰ (基本の学習形態)



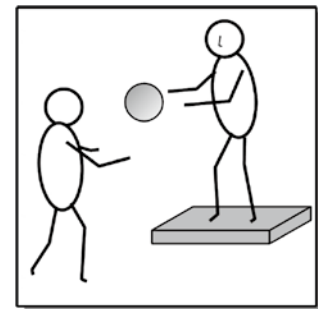
#### 指導形態Ⅱ (発展形態)



#### 社会性の学習の視点

他の人や状況の理解と行動

#### <支援の方法>



児童は立つ位置を意識するために低い巧技台に乗って行う。

#### <授業の成果>

教師側からの「いくよ」の働きかけに対して、言葉や身振りで応じることがスムーズになり、視線が合うことが多くなった。対教師とのキャッチボールではふざけてわざと取りにくいところへ投げていたのに、相手が友達になったときには差し出した手のあたりへそっと放る児童がいた。

単元終了時に、まだ支援が必要な児童は多かったが、相手を意識する場面は多くなった。

# 「対人関係に関すること」

## 8 活動名「“おーい”のうた」

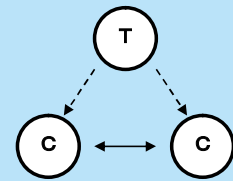
### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

朝の会や帰りの会など、呼ばれても返事をするのが難しいので、呼ばれたことを理解し、返事をするのを学習する。

### この授業で学習させたい目標

- 相手を意識して名前を呼ぶ。
- 呼ばれたら、呼んだ相手に対して返事をする。

### 指導形態—Ⅲ (発展形態)



### <主な活動>

児童の学習	支援
①示された写真カードを見て、当たった児童が前が出る。	
②他の児童が、その友達に向かい、おーいの歌を歌う。	・相手を意識して視線を向け、歌の後に名前を呼ぶように、教師も一緒に声を出して支援する。
③呼ばれた友達は、友達に向かって返事し、ハイタッチをする。	・呼ばれたことを意識して、呼んでくれた相手に応えるように支援する。

### 社会性の学習の視点

他の人や状況の理解と行動

### <支援の方法>

◎プレゼンテーションソフトで歌詞カードを提示します。

「おーい」のうた

くんにもかって おーい  
 くんにもかって おーい  
そしたら  くんがこたえるよ

※部分には児童の写真が入ります。



### <授業の成果>

周りにいる大人ではなく、呼んだ友達を意識して挨拶や返答ができるようになった。

## 「対人関係に関すること」

### 9 活動名「「せーの」に合わせて、友達を呼ぼう」

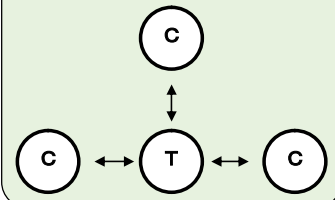
#### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

教師の合図や指示に注目することが弱く、また、友達に注目したり意識したりすることが難しく、周りの友達と一緒に行動をすることが難しい児童を対象に、友達を呼ぶ活動を行う。

#### この授業で学習させたい目標

- 教師の合図に合わせて行動できる。
- 遊び（活動）に興味・関心を向け、その楽しさを共に味わう。

#### 指導形態—Ⅱ（発展形態）



#### <主な活動>

児童の学習	支援
※ 児童Aは、新聞紙の裏側に隠れる。その他の児童は、教師と一緒に待つ。	
① 待っている児童は、教師の「せーの」の合図で、児童Aの名前を呼ぶ。 「せーの」 「〇〇 きーん」	・「せーの」に続いて、教師も含めて、全員で、声を出すことで、合図に合わせて友達を呼ぶように支援する。
② 児童Aは、新聞を破いてみんなの前に出てくる。	
③ 待っていた児童全員と児童Aは、「こんにちは」といって握手をする。	・出てきた友達を全員で、歓迎することで、楽しい雰囲気を作る。

#### 社会性の学習の視点

周りの人に合わせた行動



#### <授業の成果>

教師の「せーの」に合わせることができるようになってきた。  
この授業以外にも、「せーの」に合わせる行動ができるようになり、他のクラスの児童等との合同学習でも応用できるようになってきた。

## 「対人関係に関すること」

### 10 (1) 活動名「ボール転がし 1 受け取り」

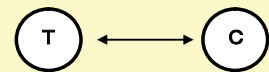
#### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

相手を意識し、相手の動きに注目することが難しいので、簡単な活動の中で、人の動きに合わせて行動することを学ぶ。

#### この授業で学習させたい目標

- 相手の動きと表情に注目する。
- 相手の動きに合わせて行動する。

#### 指導形態— I (基本の学習形態)



#### 社会性の学習の視点

周りの人に合わせた行動

#### <主な活動>

児童の学習	支援
①教師が、ボールを入れるところに注目する。	・児童が、こちらを見るまで待つ。見ない場合は、援助の量を増やしていく。
②教師が入れた側の筒の下に、缶を持っていく。	・児童が、こちらを見たら、どちらかの筒にボールを入れる。
③筒から出てきたボールを缶で受け取る。	・教師が入れた側の筒の下に、缶を持っていくように支援する。
	・ボールを受け取ったら、ハイタッチで、賞賛する。

#### <支援の方法>

児童に指示し、動きがなければ、5秒待ち、段階的に援助の量を増やす方法で、支援する。



#### <授業の成果>

相手が何をしようとしているのか注意して見て、それに応じた行動ができる。

## 「対人関係に関すること」

### 10 (2) 活動名「ボール転がし 2 転がし」

#### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

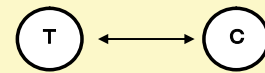
相手を意識し、相手の動きに注目することが難しいので、簡単な活動の中で、人の動きに合わせて行動することを学ぶ。

活動例10(1)の活動名「ボール転がし 1 受け取り」で十分に学習が進んだ児童は、教師と児童の役割を代えて、行う。

#### この授業で学習させたい目標

- 相手の動きと表情に注目する。
- 相手の動きに合わせて行動する。

#### 指導形態—I (基本の学習形態)



#### 社会性の学習の視点

周りの人に合わせた行動

#### <主な活動>

児童の学習	支援
①受け取る教師に注目する。	・児童が、教師の動きを見るまで待つ。見ない場合は、援助の量を増やしていく。
②教師が、どちらの筒から受け取ろうとしているのかを理解する。	・教師が受け取りたい側の筒に、ボールを持っていくように、援助の量を増やして支援する。
③教師が受け取ろうとする筒の側に、ボールを持っていき、転がす。	・児童がこちらを見たら、「入れていいよ」とボールを入れさせる。
④教師が缶で受け取る場所に注目する。	・ボールを受け取ったら、ハイタッチで、賞賛する。

#### <支援の方法>

児童に活動を促し、動きがなければ、5秒待ち、段階的に援助の量を増やす方法で、支援する。



#### <授業の成果>

相手が何をしようとしているのか注意して見て、それに応じた行動ができるようになった。

## 「対人関係に関すること」

### 1 1 活動名「つなひき」

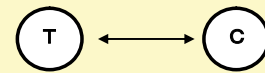
#### 学習上又は生活上の困難の改善の視点

人の動作に合わせて行動することが難しいので、人の動きをみて行動する活動を行った。

#### この授業で学習させたい目標

- 活動中に教師と目を合わせる。
- 教師の綱を引く動作に自分の動作を合わせる。

#### 指導形態— I (基本の学習形態)



#### <主な活動>

児童の学習	支援
①呼名をされたら、前に出る。	
②挨拶をする。	
③綱を持つ。	・活動中に教師と目を合わせる。
④「うんとこしょ どっこいしょ」のかけ声に合わせて、引き合う。 1 引く。 2 引かれる。 3 後ろに下がる。 4 背中がパネルに着く。	目が合わなければ・・・ 1 呼びかけや「見て」などの言語指示 2 1の支援に加えて綱をゆらすなど直接的なきっかけ 3 2の支援に加えて別の教師が後ろから身体を正面に向けるなどの身体的な援助
⑤背中がついたら終了する。	※全ての支援について5秒程度待っても、行為として現れない場合は、次の支援を行う。

#### 社会性の学習の視点 身近な人の理解



#### <授業の成果>

他の授業場面においても、教師と目を合わせることや、見本として提示された物などへの注目が増えてきている。

## 「対人関係に関すること」

### 12 活動名「挙げっこゲーム」

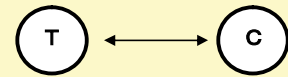
#### 学习上又は生活上の困難の改善の視点

朝の会や体育で、教師に注目することが難しく、まねをして行動することも少ないので、まず、注目しやすい場面で教師の動きをみて模倣する活動を行う。

#### この授業で学習させたい目標

- 短時間、教師に注目して集中し続ける。
- 鏡に映る模倣と左右の違いに気付き、教師の動きを見て模倣する。
- 思い込みで行動せず、自分の身体の調整力を高める。

#### 指導形態— I (基本の学習形態)



#### <主な活動>

児童の学習	支援
①児童は教師と向かい合って座る。	・左右の違いに意識を向けやすくする。
②重さ、長さの異なる物を両手に持つ。(例、りんごとバナナ)	・最初は、児童の動きに合わせて、ゆっくり動かす。 ・児童が、教師の動きを追いかけられるようになったら、スピードを変えたり、向きを急に換えたりすることで、思い込みで動かず、教師の動きを追うように支援する。
③教師の動きをよく見て、教師の出す合図に応じ、その動きを模倣する。	
④終わったら教師と「できた」と手を合わせて確認する。	・終わったときに、できたねと褒める。

#### 社会性の学習の視点

周りの人に合わせた行動



#### <授業の成果>

日常生活において、持ち手の違いに気付き、修正する場面が見られた。相手の動きに注意を向けることが少しずつ増えてきた。また、細かい動きにも、自分の身体を調整させながら行動することが見られた。